

イ 中学部第2学年単一学級の取組

(7) 付けたい力


- 自分の役割を意識して、係の仕事に取り組む力
- 人とかかわりながら活動に取り組む力

(イ) 題材の目標

- 主体的に朝の会を進めることができる。
- 朝の会を通して、基本的な学習規律を守る習慣を確立することができる。


(ウ) 環境づくり

物理的支援環境 ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置




お互いの動きをよく見たり、スムーズに出たりすることができるように、席配置を半円にした。

物理的支援環境 ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置




発語のない生徒も主体的に司会を進めることができるよう、音声を入れたパワーポイントを使用した。

物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



朝の会までの時間を意識できるように、モニターテレビにタイムタイマーを映した。


物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



一人ずつ確認して花マルをつける。


友達の方を向いて、姿勢を確認できるように、パワーポイントに花丸を付けるスライドを挿入した。

人的支援環境 ③ 教師の役割



生徒の主体的な動きや、生徒同士のかかわりを促すために、教師は言葉掛けを少なくし、席の後ろで見守った。

人的支援環境 ④ 児童生徒の役割



教師が係の仕事を手伝うのではなく、生徒同士で助け合うことのできる係を設定した。

(エ) 生徒の変容(環境づくりに視点を当てて)

- ・ 教師が言葉掛けを少なくし、生徒同士のかかわりや活動が増えたことで、朝の会を自分たちでやり切ることが自信になり、以前に比べ、学年全体の授業で自分から挙手をして前に出るなど、挑戦しようとする姿が多く見られるようになった。
- ・ タイムタイマーを使って朝の会までの時間を意識できるようになったことで、朝の会以外の授業でも、同様にタイムタイマーを示せば机を移動して着席し、学習の準備をして待つておくことができるようになった。
- ・ 正しい姿勢を絵で示し、係の生徒が一人一人確認することで、朝の会で正しい姿勢が習慣的に身に付いてきたため、他の授業で授業始めの「姿勢。」の号令だけでよい姿勢ができるようになった。



〈生徒同士のかかわりが増えた。〉



〈タイマーを見て移動する。〉



〈よい姿勢で朝の会を行う。〉

(オ) 題材全体の振り返り

授業を繰り返すなかで、活動内容や支援の方法を随時細かく変更しながら授業改善を行ってきた。大まかな会の流れは変更していないが、司会を交代制にすることで、最後まで新鮮な気持ちで朝の会に臨むことができた。生徒一人一人に対し、本当に必要な支援は何かを考え、支援環境を整えたことで、目標である「自分たちだけで朝の会をやり切る」ことができるようになった。また、そのことは生徒にとって大きな自信となり、朝の会の司会や係の仕事が堂々に行えるようになっただけでなく、その他の授業でも積極的に挑戦する姿が見られるようになった。教師の言葉掛けを極力少なくし、生徒間のかかわりを増やしたことで、生徒同士で移動教室の際にきれいに並ぶよう注意し合うなど、他の場面でも生かされている。学習規律に対しても、全ての授業において定時着席ができるようになったり、号令時に注意し合いながら姿勢を正したりするなど、意識が高まってきている。今後も日々授業改善を図りながら、「(ア)付きたい力」が身に付くような朝の会を目指して取り組んでいきたい。

(カ) 指導助言

助言者 広島市教育委員会特別支援教育課指導主事 山形恵美子 様

いつでも、どこでもできるようにしていくために、「もうちょっとでできる」、「できつつある」、「ある程度手掛かりがあればできる」、「このツールを使えばできる」というところに着目し、力を引き出すことが大切である。

自立と社会参加を目指すために、授業を考える際には、年齢相応かという視点で、今の年齢ではどんな力が必要か、何のためにその力を付けなくてはならないのかと意味付けをする必要がある。教師は生徒の力を信じ、その力を教師が見極め引き出すことが大切である。

今後は、言葉だけでなく、ジェスチャーでも良いので、もっと肯定的評価を増やしていくと良い。できたときに褒めることで次の行動につながっていく。